

さくら い せん せい 櫻井先生のおつめた はま ども はな ばな 浜通りの花々

～櫻井信夫 半世紀、一万点の
押し花標本・写真コレクション～

平成 29 年 4 月 17 日 ㊦ ～ 5 月 8 日 ㊦

主催：福島大学資料研究所

— 櫻井コレクション —

櫻井コレクションは南相馬市在住の櫻井信夫氏が収集した約一万点の押し花標本と、綿密な現地調査による植物の分布情報が書き込まれた地図、そして植物の生育環境を収めた多数の写真などからなる資料群です。それらは今では原発事故の影響で立ち入りが制限されている地域や、津波によって大きく様変わりした地域など、震災前の様子を物語りたいへん貴重なものです。

本展では、福島大学に寄贈され、保管されている櫻井コレクションの膨大な資料のうちの一部をご紹介します。これらを通じて、震災以前の浜通りの植物の歴史をご体感いただければ幸いです。



櫻井氏
—昭和 27 年
(1952 年)
尾瀬にて

↓平成 13 年
(2001 年)
浪江町手倉山にて、
浪江町史編纂のため
の植物調査



— 櫻井信夫 (さくらのぶお) —

- 昭和 5 年 10 月 20 日 生まれ
- 福島県会津地方の旧大沼郡の旭村 (現会津美里町) に生まれる。
- 福島県立会津中学校付属準訓導養成所 (教員養成所) に編入。卒業後、旧大沼郡藤川村国民学校にて教鞭をとる。
- 旧大沼郡東尾岐村小学校での勤務を経て、昭和 32 年に浜通り地方の相馬郡新地村立福田小学校に転勤。以降、小高町立金房小学校、福浦小学校に勤務する傍ら法政大学の通信教育課程で学士号 (文学) を取得。その後、原町市立原町第一小学校、浪江町立浪江小学校を経て再び福浦小学校で勤務。教職の傍ら植物研究を行う。
- 平成 3 年に退職後、より一層精力的に植物研究を進めつつ、小高町文化財保護審議会委員、社会教育指導員を務める。
- あぶくま生物同好会を発足させ、会長に就任。
- 浪江町史 (浪江町の自然) の植物分野を調査・執筆。
- 東日本大震災後は一時避難していたが、小高区の自宅へ帰還。南相馬市博物館の小高区生物調査事業へ参加し現在も植物研究を継続中。

植物写真資料 外ワク

植物の花や果実、生育環境を写した 2000 枚を超す写真資料です。

多くの写真が押し花標本と照合することで学術的な裏づけが可能になっています。それぞれの植物が生育していた環境を鮮明に知ることができます。

ハマエンドウ
1989年 小高区



レンゲショウマ
2008年 小高区



テリハノイバラ
1989年 小高区



ミクリ
2007年 小高区



ウツボグサ
2007年 双葉町



ハマナデシコ
1996年 大熊町



←南相馬市小高区の 2007 年のサデクサ (タデ科) の群落。福島からは現在、絶滅寸前と考えられています。この群落は圃場整備により消失しました。サデクサはこの当時は県レッドデータブックの未評価種でしたが、櫻井氏と有志によって近隣のピオ



↑サデクサの移植作業

トープへ移植が行われました。移植は成功しましたが、震災による津波で、このピオトープも消失してしまいました。一方、2015年に付近での発生も確認されています。

←南相馬市鹿島区のシャリンバイ (マルバシャリンバイ) 群落。1996 年の写真で、花盛りの季節が写されています。この群落はシャリンバイの北限域の自生集団として福島県の天然記念物に指定されています。震災時、津波の被害により、この集団もダメージを受けましたが、流されることなく現在も生育しています。



←双葉町の細谷海岸 (2003 年)

海藻標本作りの教室に櫻井氏が招かれて、その際に写した写真。このほかにもウミウシなどの写真が残っています。磯の自然観察には最高の場所だったのでしょ。この場所のすぐ南側 1 km ほどが福島第一原子力発電所で、今はとても近づくことはできません。

植物調査ノート



標本とともに、植物調査で見つめられた植物や櫻井氏が気付いたことなどが書き込まれています。

標本資料と同様に、大量の一次情報が記入されているため、情報の取扱いには特に注意が必要な資料です。

タコノアシ
2008年 相馬市

ヤマユリ
2006年 小高区



コゴメハオトギリソウ
2008年 小高区



クルマユ
2008年



ヒトリシスカ
2007年 小高区



カタクリ
1991年 飯館村



ヤブデマリ
2006年 小高区



トキノウ
2007年 双葉町

押し花標本資料

コレクションの要となるのが押し花標本資料です。福島大学に寄贈された櫻井氏の標本はその数約9000点。1960年ごろから東日本大震災が起きるまでに、浜通りを中心として採集されています。その中でも特に多いのが浪江町と南相馬市小高区（旧・小高町）で採集された標本です。

これらの標本資料は植物の「本物」を乾燥させたものですから、写真と違って細部をつぶさに確認することができます。そのため、種類の判別など専門家の再検証をいつでも行うことが可能です。それによって、震災以前の浜通りの野生植物について非常に多くのことを知ることができます。



サワアザミ
2008年 小高区



↑コハマギク（相馬市）
浜通りの海岸部に多くみられる代表的なキクの仲間です。



↑マツムシソウ（大熊町）
自生地周辺は現在は立入制限がかけられています。



↑キクザキイチゲ（浪江町）
低山の春を彩る花。自生地の多くが空間線量が高い状況です。



クサレダマ
2006年 小高区

↓イワアカザ（浪江町）
櫻井氏によって発見された国内で絶滅寸前の希少な植物です。

↓ハマナス（双葉町）
県内では絶滅の危機にあります。さらに、植栽のものによる駆逐や交雑が懸念されます。

↓サデクサ（南相馬市小高区）
県内で絶滅が危惧されています。櫻井氏によって“2度”レスキューされた植物です。



タマゴタケ
1990年 小高区



ヤマブキソウ
2007年 小高区



浪江町



カセンソウ
2010年 相馬市



シャリンバイ
1996年 鹿島区



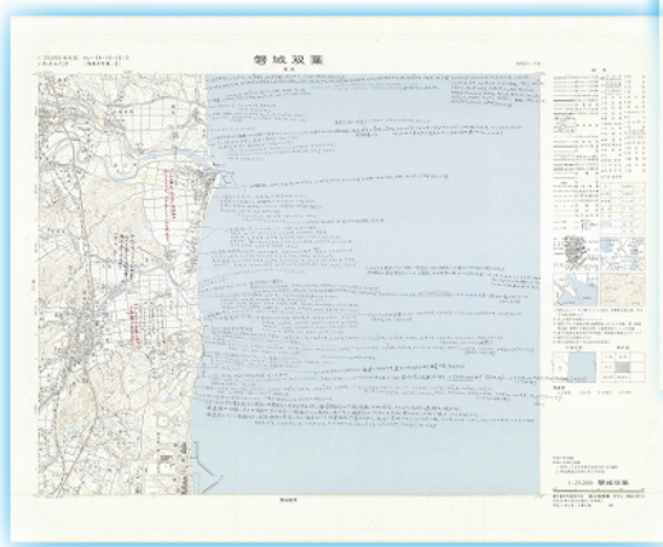
ハマナス
1990年 相馬市



ミヤマスカシユリ
2008年 鹿島区

地図資料

福島県太平洋沿岸の地図（国土地理院）に、櫻井氏の手書きで、沿岸部の植物の情報が書き込まれています。



↑「警城双葉」の地図、原発のすぐ近くまで詳細な書き込みがある



↑「相馬中村」震災前の松川浦の貴重な情報

書き込まれた植物の中には津波によってその場所から絶滅したものも含まれています。また、放射能汚染によって立ち入りが制限されている地域の情報も詳しく知ることができます。

資料レスキュー

櫻井氏の小高区の自宅に収蔵されていた押し花標本は、震災直後から氏が避難生活を余儀なくされたために、保存が危ぶまれる状態となりました。押し花標本は湿気によるカビの発生や、乾燥した植物質を好む害虫にととても弱く、それらが発生すれば膨大な資料が永遠に失われてしまうおそれがありました。

そのため、あぶくま生物同好会の末永福男氏ら会員の方々、そして南相馬市博物館学芸員によって押し花標本をご自宅から福島大学へ移送するレスキュー作業が行われました。警戒区域であった小高区の立ち入り許可とスクリーニング検査を受けながらの移送は3回にわたりましたが、無事に完了し、共生システム理工学類生物多様性保全研究室によって保存・整理が進められました。

→福島大学へ移送された当時の写真。これ以外の記録写真はなく、当時のあわたたしさがうかがえる。



→押し花標本の整理を進める福島大学の学生や職員。貴重な標本を登録する作業は心なしか誇らしげに見えます。データベース化された標本はインターネット上で公開され、閲覧することができます。

おわりに

櫻井コレクションは、私たちの知らない震災前の浜通りの植物の記憶を教えてくださいました（それも驚くほど豊かな記憶です！）。

櫻井氏の資料はまさに福島県全体の文化的財産と言えるでしょう。

一方で、それらの植物の一部の自生地は今現在危機的な状況にあることもわかってきました。（「絶滅」の単語が何度も登場しました）

氏は現在も精力的に地域の植物調査を継続されています。また、氏と同様に県内のさまざまな場所でさまざまな立場の方々が行政の力を頼ることなく、「無償で」活動を行っています。これらの活動は将来誰の手に委ねられるのでしょうか？ 多くの潜在的な資料は、はたして次世代へと引き継がれるのでしょうか？ 私たちにできることはなんなのでしょう？ ほんの少しだけ、思いをめぐらせていただければ幸いです。

展示協力者及び機関（順不同、敬称略）

【個人】櫻井 信夫、末永 福男、柴崎 直明、兼子 伸吾、水澤 玲子

【団体・機関】福島大学図書館、あぶくま生物同好会、島根大学秋廣研究室

この資料は南相馬市博物館特別展のパンフレットに、福島大学での展示用として最小限の改訂を加えたものです。

平成29年4月8日 編集 / 南相馬市博物館 仲川邦広 改訂 / 黒沢高秀

福島大学資料研究所

〒960-1296 福島県福島市金谷川1

TEL 024-548-8201 kurosawa@sss.fukushima-u.ac.jp

<http://www.sss.fukushima-u.ac.jp/~kurosawa/>

IUMC_Fukushima_Univ/fukushima_ac.html

